

山形 昇 部長



山形昇部長

奈良県奈良市右京1-3-3
TEL:0742-71-1030
最寄りの駅／近鉄京都線高の原駅、徒歩5分
<http://www.takanohara-ch.or.jp/>

<スタッフ>澤田仁部長・戸田陽子副部長

やまがた・のぼる。1964年奈良市出身。89年京都府立医科大学卒。公立南丹病院血液内科医長、Vanderbilt-Ingram Cancer Center, Research fellow, 国立国際医療センター血液内科、病棟医長などを経て、2005年高の原中央病院血液内科副部長、07年現職。



実績・実績

2007年のべ入院患者数は、悪性リンパ腫 163人、急性白血病 34人、多発性骨髄腫およびマクログロブリン血症 31人、骨髄異形成症候群 25人、慢性白血病 19人

特色 症例を選ばず迅速対応を第一に

2001年1月開設以来、地域医療を担う血液内科として、合併症を持つ症例や重症例も積極的に受け入れ、入院要請があれば即日対応、迅速な診療を常とする。そのため検査科の充実や、各科の空床相互利用など協力体制ができています。また泌尿器科との連携で随時透析導入も可能。2007年夏の新病棟オープンに伴い、無菌室6床が新設された。

治療 患者や家族の事情も尊重し最善の医療を

奈良県と京都府の境に位置する関西学研都市の平城・相楽地区にある市中病院。症例を選ばず受け入れることを念頭に、迅速かつ適切な診療を行うことを科の信条とする。

同科の特徴の1つは、出身医局など経歴が異なる医師によるチーム医療である。毎日のミーティング以外に週に1度は必ず3人の医師が集まり、学閥にとらわれない自由な発想のもと、互いの経験を出し合い、時に補い合い、すべての入院患者について症例検討を行う。治療法は、患者本人の思いや人生観といった個別の事情に配慮し、患者や家族と相談を重ね、双方の納得を得た上で最も有効と判断したものを選ぶ。これは山形部長が大切にしている医療者側の姿勢である。完治の可能性がある症例では新規薬剤や造血幹細胞移植を施行するなど積極的な治療を行うが、高齢患者や、すでに合併症がみられる症例に対してもミニ移植の導入により

生存の可能性を広げており、他施設からの紹介患者の移植も受け入れている。外来では、ケースワーカーも交え地域と連携し在宅医療や介護サービスの利用も検討し、最善のケアを目指す。

2004年～06年のべ入院患者数の上位3疾患は、①悪性リンパ腫272人（うち新患74人）、②急性白血病110人（新患41人）、③多発性骨髄腫およびマクログロブリン血症93人（新患35人）。造血幹細胞移植についても積極的に取り組んでおり、01年9月から07年12月までに80回を施行。04年～07年の移植数と内訳は、自家移植30回、同種末梢血幹細胞移植16回、臍帯血移植7回、同種骨髄移植4回だった。

同科は、奈良県内では大学病院など4か所の医療機関との協力体制があり、必要に応じて密接な連携をとっているほか、京都方面の医療機関とも同様のつながりを保つなど効率的な診療体制を築いている。

山形部長からのアドバイス

血液内科は、移植や新規の治療薬の出現で治療の進歩が特に著しい領域です。我々は医療を受ける側となられた方々と同じ目標に向かって共に力を尽くしたいと思っています。治療方針の決定が難しい場合でも、ご病状、最新の治療選択肢などをよく相談の上、十分に納得されて治療を受けていただけるよう努力しています。あなたにとってベストの治療法、療養法を共に考えていきましょう。

●外来診療日 ▶ 月・木曜（受付8:00～11:45）初診は予約なし 他施設で診療を受けている場合は要紹介状 セカントオピニオンは事前に電話で要相談

造血幹細胞移植

がん(内科)

化学療法・造血幹細胞移植ほか